

平成 28 (2016) 年度

(1 年次用)

講 義 概 要

東 北 大 学 文 学 部

1年次開講科目一覧

基礎専門科目（入門）

授業科目	講義題目	単位	担当教員名		開講 Semester	曜日	講時	頁	
			氏名						
人文社会総論	人文社会科学の世界	4	泉木 嶋萩	武敏 村崎 原	夫明啓理	1	水・金	5・4	2
人文社会序論	言葉を科学する	2	阿部	宏	1	月	3	2	
人文社会序論	2 Semesterからのフランス語	2	黒岩	卓	2	火	2	3	
人文社会序論	哲学・倫理学入門前—自分で考えるために	2	萩原	理	2	水	5	3	
人文社会序論	行動科学で解き明かす社会	2	浜永	田吉	宏子 希久	1	月	4	4
人文社会序論	文化人類学序論	2	川口	幸大	2	木	2	4	
人文社会序論	宗教学入門	2	木村	敏明	2	木	2	5	
英語原書講読入門	英語文献による人文社会入門	2	阿部 長谷川 永井 小泉 金子 原 沼崎 大河内	恒公 彰利 政義 一 昌	(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8)	2	水・金	3・3	5

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 総 論 General Introduction to Humanities and Social Sciences	4	教授 泉 武夫・木村敏明・嶋崎 啓 准教授 荻原 理	1	水・金	5・4
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS201J				
◆ 授業題目	人文社会科学の世界				
◆ 目的・概要	この授業は、文学部の必修科目であり、文学部の学生は1年次の第1セメスターに必ず履修する必要があります。毎週水曜第5時限と金曜第4時限に、文学部の25すべての専修が各1回講義を担当します。文学部生は、この全授業を受講し、人文社会科学というものを総合的に理解することが望まれます。課題として合計4つのレポートを作成し提出してもらうことになります。第1回の授業の際に詳しいオリエンテーションを行いますので、必ず出席してください。受講するうえで不明な点等ありましたら、上に名前を挙げた教員に聞いてください。				
◆ 到達目標	文学部の全専修の講義を受講し、関心あるテーマについてレポートを作成すること等を通して、人文社会科学に対する総合的、基礎的な思考力を身につけるとともに、専門を学ぶ上での目的意識や関心を高める。				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション 外から見た日本語 学際科学としての心理学 西洋美術への招待 「人生の意味は何か」とはどのような意味か 大学で学ぶヨーロッパ史 文化人類学の考え方 物語の何が面白いのか 人間関係は犯罪を防げるか? 日本美術の世界 宗教学の世界 フランス文学入門 詩の英語/英語の詩を味わう 古典文学を発見的に読み、考えるために 日本思想史とは何か 歴史の中の天皇 言語学のすすめ 農村地域社会の社会学 中国文学の紹介—戯曲文学を中心に— ヒトは仙人になれるのか—道教の思想と実践— 先史文化の比較考古学 ようこそ国語学の世界へ 英語学は何をめざして研究しているのだろうか 自由と責任の行方 インド仏教研究と河口慧海—文献研究を通じた仏教理解への眼差し— 中国の歴史に学ぶ人間の営み まとめ 				
◇ 成績評価の方法	レポートと出席とを総合して評価します(比重の目安は、レポート60%、出席40%)。				
◇ 教科書・参考書	テキスト:『人文科学ハンドブック』(東北大学出版会)。 参考書:『人文社会科学の新世紀(改訂新版)』(東北大学出版会)。その他、各授業で随時紹介します。				
◇ 授業時間外学習	講義を受ける中で自分が関心を持ったテーマについてを、講義中に紹介された文献などを手がかりにして、自分で調べて、レポートを書く準備をしてください。				
その他:??各自教科書・参考書を購入し、第1回の授業時に必ず持参してください。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 序 論 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	教授 阿 部 宏	1	月	3
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS203J				
◆ 授業題目	言葉を科学する				
◆ 目的・概要	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の研究の誕生と歴史について学ぶ ヨーロッパ系諸言語の系統関係を理解する 日本語と外国語の対照研究の方法論を学ぶ 言葉と心の関係について考える 				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 音、意味、文法などの変化の仕組みがわかる 各国語の違いを超えた共通性にきづく 言葉について自力で研究が進められるようになる 				
◆ 授業内容・方法	<ol style="list-style-type: none"> ガイダンス 言葉の研究の誕生 サンスクリット語の発見 比較文法 音法則と類推 青年文法学派 ソシュール(1) ソシュール(2) 音韻論 構造主義 メタファーと文法化 言葉と認知 言葉の主観性 言葉の科学と文学テキスト まとめ 				
◇ 成績評価の方法	平常点30%、レポート70%				
◇ 教科書・参考書	教科書:阿部宏(2015)『言葉に心の声を聞く—印欧語・ソシュール・主観性—』東北大学出版会 参考書:適宜、教室で案内します				
◇ 授業時間外学習	教室で適宜テーマを与えますので、関連資料を調査し、各自考えていただきます				
その他:					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 序 論 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 黒 岩 卓	2	火	2
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS203J				
◆ 授業題目	2セメスターからのフランス語				
◆ 目的・概要	ゼロからフランス語の基礎を学びます。つまり、第一セメスターでフランス語を学んでいない、完全な初心者を対象とします。もちろん、フランス語を既に学んだことのある人、あるいは学びつつある人が、復習ややり直しのために参加することも可能です。				
◆ 到達目標	フランス語文法の基礎を一通り学びます。				
◆ 授業内容・方法	(以下、教科書の進度を示します。目安ですので実際には変動があり得ます。)				
	1. Leçon 0	10. Leçon 15			
	2. Leçon 1 および Leçon 2	11. Leçon 16			
	3. Leçon 3 および Leçon 4	12. Leçon 17			
	4. Leçon 5 および Leçon 6	13. Leçon 18			
	5. Leçon 7 および Leçon 8	14. Leçon 19			
	6. Leçon 9 および Leçon 10	15. Leçon 20			
	7. Leçon 11				
◇ 成績評価の方法	出席回数および出席時の授業参加によって評価します。				
◇ 教科書・参考書	石上亜紀子、加藤豊子、富田正二、中川高行、西村美穂著『アトリエ・フランセー見開きフランス語文法―』、朝日出版社、2007年。				
◇ 授業時間外学習	少ない授業時間でフランス語文法を一通り概観します。かなりの進度で進みますので、授業時間以外の学習が極めて重要になります。予習の有無が成績評価に直結しますので、強い意志をもって授業に参加してください。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 序 論 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 荻 原 理	2	水	5
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS203J				
◆ 授業題目	哲学・倫理学入門前―自分で考えるために				
◆ 目的・概要	哲学専修または倫理学専修への進学を考えている文学部1年生の方が主な対象（下の「その他」参照）。哲学的な議論・思考にふれて、自らやってみて、なじんでいってもらうことが目的。クラス内でのディスカッション、および、教員のコメントが中心（ただし、人前で話すのが苦手な方は、授業外にTAや教員にメールを送るという形でディスカッションに参加してくれるもよい）。皮切りのテーマは教員が準備するが、その後の話題は成り行き次第。授業中に10分ほどのプレゼンテーションをするか、期末レポートを提出するかしてもらう。プレゼンやレポートのテーマは教員かTAと相談して、追い追い決めていく。プレゼンまたはレポート提出の前に、TAのアドヴァイスを受けてもらう。哲学のトピックをめぐって思考できるようになること。				
◆ 到達目標					
◆ 授業内容・方法	(授業の様子に応じて、進度ややりかたを変えることがあり得る。)				
	1. ガイダンス	8. その次の話題(1)			
	2. 最初の話題(1)	9. その次の話題(2)			
	3. 最初の話題(2)	10. その次の話題(3)			
	4. 最初の話題(3)	11. プレゼン(1) およびそれをめぐるディスカッション			
	5. 次の話題(1)	12. プレゼン(2) およびそれをめぐるディスカッション			
	6. 次の話題(2)	13. プレゼン(3) およびそれをめぐるディスカッション			
	7. 次の話題(3)	14. プレゼン(4) およびそれをめぐるディスカッション			
		15. プレゼン(5) およびそれをめぐるディスカッション			
◇ 成績評価の方法	プレゼンテーションまたは学期末レポート：60%、出席：30%、授業中（またはメール）のパフォーマンス：10%				
◇ 教科書・参考書	授業中プリントを配布する。 参考書：『高校倫理からの哲学』シリーズ（岩波書店）				
◇ 授業時間外学習	授業中のディスカッションをめぐって考えたり、予告されたテーマについて考えたりし、次回の授業での発言を準備する（またはTAや教員にメールする）。				
その他： 哲学専修・倫理学専修への進学を考えている学生さんはなるべく履修してください。他学部の学生さんは、履修登録前に、担当教員に相談してください（授業初回などに直接会って話すのでも、電子メールでも）。					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 序 論 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 准教授 浜 田 宏 永 吉 希久子	1	月	4
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS203J				
◆ 授業題目	行動科学で解き明かす社会				
◆ 目的・概要	行動科学の基本的な考え方を身に付けて、私たちが生きているこの社会のことをよりよく、またより深く理解できるようにする。				
◆ 到達目標	行動科学の基本的な考え方を身に付けて、私たちが生きているこの社会のことをよりよく、またより深く理解できるようにする。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション 2. 相対的剥奪と準拠集団 —恵まれているのに不満を感じる理由 3. 暴走族はなぜ減少しているのか—非行少年の消滅 4. ゼロ価格アノマリ—無料より高いものはない 5. 美容整形はなぜ受け入れられるようになったのか —身体と技術 6. 美貌格差—美しいと得をする 7. 日本の女性の就労率が低いのはなぜか —福祉国家とジェンダー 8. 出会い・ランダムウォーク・所得分布の生成モデル 9. ブラック企業で一生懸命働いてしまうのはなぜか —バイク便ライダーの社会学 10. コンドルセのパラドクス —多数決がいつも最良とはかぎらない 11. 自己啓発本はなぜ流行するのか —再帰性とアイデンティティの模索 12. モンティホール問題 —あなたの直感はあるてにならない 13. 生活保護受給者が少ないのにパッシングされるのはなぜか —福祉国家と規範 14. 主観的幸福の実証研究—幸福になるために 15. 総括				
◇ 成績評価の方法	出席 (40%)、レポート (60%)				
◇ 教科書・参考書	教科書は指定しない。適宜資料を配付する。 参考書：盛山和夫 (編)『社会を数理で読み解く』有斐閣。				
◇ 授業時間外学習	参考書を読み、授業内でのディスカッションで活用すること。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時
人 文 社 会 序 論 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	准教授 川 口 幸 大	2	木	2
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS203J				
◆ 授業題目	文化人類学序論				
◆ 目的・概要	文化人類学とは、主としてフィールドワークを通じて異文化について研究し、そこから相対的な視野と思考力を養おうとする学問である。この授業は文化人類学の入門である。文化人類学の基礎的な知識を学び、フィールドワークの体験を通して、この学問の特徴を知ってもらいたい。 授業は大きく分けて、①文化人類学の考え方についてのレクチャーと討論、②フィールドワーク体験、③民族誌の講読、④レポートの作成の4つから成る。主な内容は、講義を聴き、議論し、課題をこなしてゆき、最終的にレポートを作成することである。				
◆ 到達目標	文化人類学がいかなる学問で、どのような考え方と方法のもとに研究を進めていくのかについての基礎を学ぶ。				
◆ 授業内容・方法	1. イントロダクション：授業の概要 2. 文化人類学の考え方① 家族・親族、社会関係、つながり 3. 文化人類学の考え方② 結婚とは？ 4. 文化人類学の考え方③ 男／女を考える：性とジェンダー 5. 文化人類学の考え方④ 世界をどう見るか、何を「信じる」か？：宗教 6. 文化人類学の考え方⑤ 経済を人類学から考える：儲かることはよいことか？ 7. 文化人類学の考え方⑥ グローバリゼーション＋ローカリゼーション＝？ 8. フィールドワークをしてみよう① 非参与観察とインタビュー入門 9. フィールドワークをしてみよう② 公園での非参与観察報告会 10. フィールドワークをしてみよう③ インタビュー報告会 11. 民族誌を読んでみよう① 12. 民族誌を読んでみよう② 13. レポートを構想する 14. レポート構想発表会 15. まとめ：文化人類学を学んで				
◇ 成績評価の方法	レポート [40%]、出席・討論参加 [20%]、最終レポート [40%]				
◇ 教科書・参考書	授業にて指示する。				
◇ 授業時間外学習	毎週、その回の授業内容に沿った課題を出す。				
その他：					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
人 文 社 会 序 論 Introduction to Humanities and Social Sciences	2	教授 木村敏明	2	木	2																
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS203J																				
◆ 授業題目	宗教学入門																				
◆ 目的・概要	<p>本授業では、宗教学の基本的なものの見方と主要なテーマについて、次のような方法で理解することを目指す。具体的には、次のような内容を含む。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 宗教学の基本的なものの見方について、教員が簡単な講義を行ったのちに、討論を行う。 2. 宗教に関する新聞記事から、各自（受講生の数によっては班単位）で興味を持った話題を選び、その社会的、学術的背景や意義について調べて発表をする。 3. 活きた宗教に触れる。幾つかの宗教の信者、あるいは宗教者にそれぞれの宗教について語ってもらい、議論をする。また、地域の宗教施設において民衆の祈願に関するフィールドワークを一回行うことも予定されている。 																				
◆ 到達目標	<p>宗教学の基本的なものの見方について理解出来る。 現代の宗教をめぐる諸問題について知ることができる</p>																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. イン트로ダクション</td> <td style="width:50%;">9. 新聞発表3</td> </tr> <tr> <td>2. 講義と討論1</td> <td>10. 新聞発表4</td> </tr> <tr> <td>3. 講義と討論2</td> <td>11. 活きた宗教に触れる1</td> </tr> <tr> <td>4. 講義と討論3</td> <td>12. 活きた宗教に触れる2</td> </tr> <tr> <td>5. 講義と討論4</td> <td>13. 活きた宗教に触れる3</td> </tr> <tr> <td>6. 講義と討論5</td> <td>14. 活きた宗教に触れる4</td> </tr> <tr> <td>7. 新聞発表1</td> <td>15. まとめ</td> </tr> <tr> <td>8. 新聞発表2</td> <td></td> </tr> </table>					1. イン트로ダクション	9. 新聞発表3	2. 講義と討論1	10. 新聞発表4	3. 講義と討論2	11. 活きた宗教に触れる1	4. 講義と討論3	12. 活きた宗教に触れる2	5. 講義と討論4	13. 活きた宗教に触れる3	6. 講義と討論5	14. 活きた宗教に触れる4	7. 新聞発表1	15. まとめ	8. 新聞発表2	
1. イン트로ダクション	9. 新聞発表3																				
2. 講義と討論1	10. 新聞発表4																				
3. 講義と討論2	11. 活きた宗教に触れる1																				
4. 講義と討論3	12. 活きた宗教に触れる2																				
5. 講義と討論4	13. 活きた宗教に触れる3																				
6. 講義と討論5	14. 活きた宗教に触れる4																				
7. 新聞発表1	15. まとめ																				
8. 新聞発表2																					
◇ 成績評価の方法	授業中の発表、議論への参加状況。																				
◇ 教科書・参考書	教科書：井上順孝、『フシギなくらい見えてくる！本当にわかる宗教学』日本実業出版社																				
◇ 授業時間外学習	発表の準備、授業内容の復習。																				
その他：																					

授 業 科 目	単 位	担 当 教 員	開 講 セメスター	曜 日	講 時																
英 語 原 書 講 読 入 門 Introduction to Academic Reading in English	2	教授 阿部 恒之(1)・長谷川公一(2)・永井 彰(3) 准教授 小泉 政利(4)・金子 義明(5)・原 壘(6) 沼崎 一郎(7)・大河内 昌(8)	2	水・金	3・3																
◆ 科目ナンバリング	LHMOHS202J																				
◆ 授業題目	英語文献による人文社会入門																				
◆ 目的・概要	<p>本授業では、各授業担当者の専門領域に関わる内容の英語文献を講読します。英語原書文献の読解力は二年次以降の学習・研究にとって重要であるばかりでなく、文学部卒業生に期待される基礎学力として欠かせません。英語原書文献の正確な読解には、語学的読解力と論旨を正確に把握する思考力が必要となります。加えて、トピックの背景知識や、その他の一般的知識も必要です。したがって、英語辞書等の活用に加えて、語学以外の側面についても自ら調べる姿勢が重要となります。本授業では、専門課程で必要となる「読み方」や「調べ方」を身につけてもらうことを特に重視します。各授業の具体的内容は授業紹介を参照してください。また、授業方法、評価方法等の詳細は、授業開講時に各担当者が指示します。</p>																				
◆ 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語原書文献の読解力が身につく ・文献の批判的講読の仕方が身につく ・理論的思考力が身につく 																				
◆ 授業内容・方法	<table style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="width:50%;">1. イン트로ダクション（各教員の指示にしたがうこと）</td> <td style="width:50%;">9. 英語原書の講読演習(8)</td> </tr> <tr> <td>2. 英語原書講読の演習(1)</td> <td>10. 英語原書の講読演習(9)</td> </tr> <tr> <td>3. 英語原書の講読演習(2)</td> <td>11. 英語原書の講読演習(10)</td> </tr> <tr> <td>4. 英語原書の講読演習(3)</td> <td>12. 英語原書の講読演習(11)</td> </tr> <tr> <td>5. 英語原書の講読演習(4)</td> <td>13. 英語原書の講読演習(12)</td> </tr> <tr> <td>6. 英語原書の講読演習(5)</td> <td>14. 英語原書の講読演習(13)</td> </tr> <tr> <td>7. 英語原書の講読演習(6)</td> <td>15. まとめと試験（各教員の指示にしたがうこと）</td> </tr> <tr> <td>8. 英語原書の講読演習(7)</td> <td></td> </tr> </table>					1. イン트로ダクション（各教員の指示にしたがうこと）	9. 英語原書の講読演習(8)	2. 英語原書講読の演習(1)	10. 英語原書の講読演習(9)	3. 英語原書の講読演習(2)	11. 英語原書の講読演習(10)	4. 英語原書の講読演習(3)	12. 英語原書の講読演習(11)	5. 英語原書の講読演習(4)	13. 英語原書の講読演習(12)	6. 英語原書の講読演習(5)	14. 英語原書の講読演習(13)	7. 英語原書の講読演習(6)	15. まとめと試験（各教員の指示にしたがうこと）	8. 英語原書の講読演習(7)	
1. イン트로ダクション（各教員の指示にしたがうこと）	9. 英語原書の講読演習(8)																				
2. 英語原書講読の演習(1)	10. 英語原書の講読演習(9)																				
3. 英語原書の講読演習(2)	11. 英語原書の講読演習(10)																				
4. 英語原書の講読演習(3)	12. 英語原書の講読演習(11)																				
5. 英語原書の講読演習(4)	13. 英語原書の講読演習(12)																				
6. 英語原書の講読演習(5)	14. 英語原書の講読演習(13)																				
7. 英語原書の講読演習(6)	15. まとめと試験（各教員の指示にしたがうこと）																				
8. 英語原書の講読演習(7)																					
◇ 成績評価の方法	各担当教員が授業開始時に指示します。																				
◇ 教科書・参考書	各担当教員が授業開始時に指示します。																				
◇ 授業時間外学習	予習段階であらかじめ教材に目をとおしておくこと。																				
その他： 1～4クラスは水曜日3校時 5～8クラスは金曜日3校時																					

英語原書講読入門授業紹介

クラス1 水・3 担当 阿部 恒之 英語の論文を読み、英語で表現する能力を培うためには、まず、この英文を理解したい、私の考えを英文で表現したいという、強い動機が必要となる。授業前半ではこちらで用意した英語論文をテキストとして用い、後半では受講者自身が読みたい英語論文をテキストとして、英文読解・表現に取り組む。 テキスト：授業開始時に指示します。
クラス2 水・3 担当 長谷川公一 <i>Time</i> 誌は例年12月に Person of the Year を発表しますが、2015年はドイツのメルケル首相が選ばれました。メルケル首相に関する <i>Time</i> 誌のカバーストーリーと関連記事を読み、現代社会が直面する社会問題やリーダーシップについて考察します。 テキスト：授業開始時に配布します。
クラス3 水・3 担当 永井 彰 アメリカの社会学者タルコット・パーソンズ (1902-1979) の初期の作品を読みます。この論文には、「行為理論」というかれの考え方が、明確に表現されています。行為する人間の立場を想像しながら読んでいきます。 テキスト：Talcott Parsons, "The place of Ultimate Values in Sociological Theory," <i>The Early Essays/ Talcott Parsons</i> , Chicago: University of Chicago Press, 1991.
クラス4 水・3 担当 小泉 政利 言語学関係の入門的論文を題材にします。授業の目的は、英語で書かれた言語学（や心理学など経験科学）関連の書籍や論文を読みこなすことができるようになることです。具体的には、基本的な専門用語を覚えるとともに、構文を正確に把握し文章の論理を明確に理解する練習をします。 テキスト：授業開始時にプリントを配布します。
クラス5 金・3 担当 金子 義明 この授業では、現代の英語研究の理論的基盤について考察し、何を研究対象として、どのような思考法に基づき、どんな研究方法をとり、他領域とどのような関係にあるのか等々を見ていきます。語学的に正確な読解と論理的内容の的確な把握に心がけます。 テキスト：授業開始時にプリントを配布します。
クラス6 金・3 担当 原 壱 授業ではSFを素材とした英語の哲学文献を丁寧に読みます。それにより、受講者の皆さんには哲学的な考え方を学んで頂きたいと思っております。 テキスト：授業開始時にプリントを配布します。
クラス7 金・3 担当 沼崎 一郎 平易に書かれた民族誌（ある民族の文化に関する記述）をテキストとし、英文を「精読」する練習をします。構文を正確に把握し、一つ一つの単語を疎かにすることなく、原文を忠実に日本語に置き換えて「読み下し文」を作るという練習です。発音指導もします。 テキスト：授業開始時にプリントを配布します。
クラス8 金・3 担当 大河内 昌 学術的な英文を正確に理解するための英文解釈の訓練を行います。テキストは「自由」とは何かという問題をあつかった思想的な文章です。文法的に構文を分析し、論旨を正確に追ってゆくための読解技法を学びます。 テキスト：授業開始時にプリントを配布します。